

巻頭言

北海道算数数学教育会

高等学校部会長 川 口 淳

(北海道岩見沢緑陵高等学校長)

第34回北海道高等学校数学コンテストが、道内18校から182名の参加申込を得て、1月11日の札幌静修高等学校をはじめとして、14会場で実施することができました。これもひとえに、問題の作成から採点に至るまで携わっていただきました先生方、並びに数学コンテストの運営にご協力いただきました会場校の先生方をはじめ、多くの関係の皆様のおかげであり、心から感謝を申し上げます。

今回の数学コンテストにおいて、生徒の皆さんは、5つの問題にじっくり時間をかけて取り組みました。高校1年までの学習内容とはいえ、様々な情報の組み合わせやいくつかの考え方をつなぐ筋道を必要とする難しい問題が多かったと思いますが、一方では、数学の面白さや奥の深さを実感したり、新たな視点を発見したりするなど、これまでにない経験をすることにより、興味・関心が一層深まったのではないかと思います。また、生徒の皆さんの解答では、発想の豊かさや着眼点の鋭さが見られ、秘められた能力を有していることの素晴らしさを感じており、数学をより深く学ぶことにより、様々な場面で活躍されることを祈念しているところです。

近年、高度情報化やグローバル化が急速に進展しており、昨年、10～20年後に多くの職業が人工知能やロボットに替わる可能性があるとの調査結果が公表されたところです。こうした社会の変化が激しい中で生きていくために必要な力として、自分の持っている能力を見だし活かすことができる力が挙げられると考えています。自分の持っている能力は、様々な経験を積み重ねることによって見出すことができると思いますし、それを活かすためには普段の努力が必要になるものと考えています。今後とも、数学コンテストがそのきっかけになるとことを願っていますし、生徒の皆さんが、このような機会を積極的に活用していくことを期待しています。

結びになりますが、数学コンテストの実施に当たって、ご後援をいただきました北海道教育委員会、札幌市教育委員会、北海道高等学校長協会、北海道新聞社の皆様、ご協賛いただきました東京書籍、啓林館、数研出版、北海道情報大学、新学舎クラブユニック、IMS数学英語ゼミ、現役予備校TANJ Iの皆様に、厚くお礼を申し上げます。